

A close-up photograph of a pink lotus flower in bloom, with its petals showing detailed vein patterns. The background is a soft, out-of-focus green. A green rectangular box is positioned in the upper right corner, and a semi-transparent grey box is centered in the lower half of the image.

No. 6

公益財団法人東洋哲学研究所

NEWSLETTER

目次

研究所紹介 -----	2-3
第 34 回学術大会・共同シンポジウム -----	4-5
「法華経——平和と共生のメッセージ」展の概要 -----	6-7
「法華経——平和と共生のメッセージ」展・インドネシア展 -----	8-11
連続公開講演会「人類の未来と人権」 -----	12-13
市民提供講座／研究部員会／研究部門活動 -----	14-15
「法華経写本シリーズ」 -----	16
出版物 -----	17-20

「IOP NEWSLETTER」No.6 では、公益財団法人東洋哲学研究所が 2019 年に推進してきた研究活動のトピックスを紹介します。

※所属、肩書、講演会タイトル等は当時のものです。

研究所紹介

創 立 者：池田 大作 創価学会インタナショナル会長

代表理事・所長：桐ヶ谷 章

【沿革】

1962年（昭和37年）1月27日 開所

1965年（昭和40年）12月3日 財団法人設立

2010年（平成22年）11月18日 公益財団法人認定

【設立趣旨】

東洋思想、なかんずく仏教のすぐれた思想・哲学を研究するとともに、各学問分野との学際的研究を推進。その成果をもって、人類が抱える諸課題の克服に貢献する。

【所在地】

住所：〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

TEL：042-691-6591 / FAX：042-691-6588

開館：月曜日から金曜日（午前10時～午後5時）



東洋哲学研究所の創立は、1961年（昭和36年）2月4日に、インドのブッダガヤを訪問した創立者・池田大作SGI会長が、東洋の英知を探究・発信する学術機関の設立を構想したことにある。東洋哲学研究所では、同日を2・4「東洋哲学研究所の日」として、毎年、記念の集いを開催している。ここでは、研究所の研究活動に期待を寄せている世界の学識者の声を紹介する。

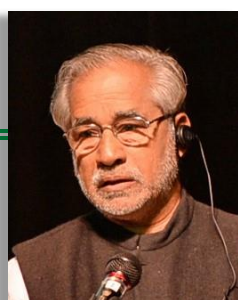
アドルフォ・ペレス＝エスキベル博士 （ノーベル平和賞・人権活動家）



（写真提供：創価大学）

東洋哲学研究所は、法華經の研究を普及し推進しており、世界の研究諸機関が保管するさまざまな法華經写本を写真版で複製するなど、写本を保護し、刊行されています。この精神の宝と思想を、人類の精神を照らすこの「光」を分かち合えるということは、大いなる希望であります。

東洋哲学研究所の歴史において、諸大学・諸研究機関と共同でのシンポジウムや展示会を通して行われてきた、長期の、実り豊かな仕事に対し、私は連帯の思いと強い支持を表明したいのです。この共同作業は「文化的・社会的に多様な人々の中の平和と団結が、思想と宗教間の相互尊重をもたらす」というメッセージを実行しています。人類の課題から眼をそらすことなく、より公正で友愛的な社会へと導く良き道を見わけ、選択できるためには、正しい批判意識と価値観が必要です。それらをはぐむことができるのは、教育を通してこそです。東洋哲学研究所は、私たちが「光」を見つけるための希望の道をつくってくれているのです。 （「東洋学術研究」第167号より抜粋）



ニーラカンタ・ラダクリシュナン博士 （ガンジー研究評議会議長）

東洋哲学研究所はまた、異なる文化や人々なかんづく青年を結びつけるために、各地の大学・高等研究機関と、息の長い交流関係を築き上げてきたことでも有名です。創立当初から進めてきた青年交流のプログラムは、きわめて独創的で、実り多いものであったことが認められています。教育と研究を通じての「人道的理想の推進」。これこそ貴研究所の幾多の業績の核心であるように、私は思います。それは、池田博士の夢を継ぎ、戦いを継いで、「新・人間革命」の松明を掲げて走る頼もしき新世代を育てる努力であります。

また東洋哲学研究所は、持続可能な開発と平和的生存にとって「対話」の役割がいかに大切かを、見事に示してこられたと、私は評価しています。これは池田博士が休むことなく推進してこられた重要な分野です。貴研究所は、多角的な取り組みによって、各世代の研究者に率先して良き影響を及ぼしてこられました。この50年で、信頼すべき研究機関であり英知の宝庫であるとの地位を確立されたのです。 （「東洋学術研究」第167号より抜粋）

第34回学術大会

同志社大学良心学研究センターとの共同シンポジウム

テーマ「地球文明と宗教の役割 ——平和と幸福観をめぐって」



第34回学術大会が3月16、17日に開催された（会場：16日＝創価大学／17日＝東洋哲学研究所）。研究所の学術大会は、国内外の研究者・委嘱研究者が集い、法華経研究をはじめ、宗教間・文明間対話、平和と人権、環境問題などの課題克服の研究成果を発表する機会であり、それぞれの専門・研究分野を踏まえたテーマで発表を行った。

今大会では同志社大学良心学研究センターとの共同シンポジウムを実施。統一テーマは、「地球文明と宗教の役割——平和と幸福観をめぐって」。2019年は、東洋哲学研究所創始者・池田大作SGI会長と対談集『21世紀への対話』を編んだアーノルド・トインビーの生誕130周年にあたる。両者の語らいの一つの帰結として、SGI会長は、全人類的な「地球文明」の創出に言及するとともに、未来の「地球文明」における宗教の役割について、「宗教は、人類心を涵養し、善心を強化し、倫理性・精神性を高め、深める“主体的役割、を担うことを期待されてい

る」と語っている。

トインビーは「新しい文明を生み出し、それを支えていくべき未来の宗教というものは、人類の生存をいま深刻に脅かしている諸悪と対決し、これらを克服する力を、人類に与えるものでなければならない」と述べている。東洋哲学研究所では、この語らいから、21世紀、そして22世紀への展望を、どのように具体的実践として展開していくかについて、研究活動を行ってきた。こうした点を踏まえ、東洋哲学研究所では近年、生命倫理、経済倫理などをテーマに、宗教の在り方を探求してきた。そして、これまでの蓄積をさらに一步深めるべく、宗教の役割について、その平和観・幸福観をめぐって同志社大学良心学研究センターとの共同シンポジウム開催を企画した。※シンポジウムの詳細は「東洋学術研究」に掲載

同センターの小原克博センター長はこれまで、2002年と2017年にそれぞれ大阪において開

催した公開講演会で「キリスト教と女性」「キリスト教と生命倫理」について発表を行い、東洋哲学研究所と交流を続けてきた。共同シンポジウムでは、仏教とキリスト教による、より積極的な宗教間対話の場の構築を目指すことで実施することとなった。シンポジウムでは、以下の発表を行った。

第1セッション〈宗教と幸福〉

- 「幸福論の復権と創価思想」（石神豊 東洋哲学研究所主任研究員）
- 「キリスト教における幸福観と超越的思考—教育的営為のなかで—」（中村信博 同志社大学良心学研究センター研究員）

第2セッション〈宗教と平和〉

- 「仏教者の戦時対応に対する解釈の可能性——創価教育学会の事例に即して」（松岡幹夫 東洋哲学研究所研究員）
- 「宗教が平和に貢献するための課題——良心学と統合的平和の視点から」（小原克博 良心学研究センター・センター長）

また、シンポジウムに先立って16日と17日の午前に研究発表大会を開催した。



東洋哲学研究所の石神豊主任研究員（左）と松岡幹夫研究員



同志社大学良心学研究センターの小原克博センター長（左）と中村信博研究員

研究発表大会 第1日目（3月16日）

- 牧口創設の通信制高等女学校消滅の謎（上藤和之 委嘱研究員）
- C.G.Jung's Theory of the Unconscious and its Impact on the Philosophy of Education（バーバラ・ドリンク 海外研究員）
- Migration Challenges: Building Networks Of Cultural Collaboration To Support Non-Violent Bottom-Up Solution To The Conflicts Looming On The Horizon（フランチェスカ・コツラオ 海外研究員）
- SDGs（Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標）の現状と課題（大島京子 研究員）

研究発表大会 第2日目（3月17日）

- 三観と三諦（前川健一 研究員）
- いじめ予防プログラム ドイツ国の取組から（大久保俊輝 委嘱研究員）
- 後漢書西域伝の閻膏珍は誰か—クシャン朝カニシカ王の父か祖父か（吉池孝一 委嘱研究員）
- 漢魏交替期の気候・災害と政治史に関する初歩的考察（満田剛 委嘱研究員）
- 野村萬斎という戦略—古典芸能の現在と未来（藤岡道子 委嘱研究員）

アジア、欧州、南米など世界 17 カ国・地域で開催

「法華経——平和と共

「法華経——平和と共生のメッセージ」展は、東洋哲学研究所が企画・制作する展示会で、2006年からスタートした。同展は、研究所が進める法華経研究の成果を広く公開するとともに、法華経の伝播の歴史と経典の内容を分かり易く紹介するものである。研究所では池田大作 SGI 会長の指針のもと、「法華経とシルクロード」展（1998 年～2000 年）、「法華経——世界の精神遺産」展（2003 年～04 年）、「法華経——平和と共生のメッセージ」展（2006 年～現在）を開催。その間、「仏教経典：世界の精神遺産——写本と図像で知る法華経」展（2016 年～現在）等も行ってきた。

法華経展の淵源となった 1998 年開催の「法華経とシルクロード」展では、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所が所蔵する約 10 万点に及ぶコレクションの中から、オリジナルの仏典写本、木版本など 14 言語 47 点が日本初の公開となった。そして、同展を発展・拡充したのが「法華経——平和と共生のメッセージ」展である。ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、中国・敦煌研究院、インド文化国際アカデミーの全面的な協力により、法華経写本の画像および複製の公開や敦煌莫高窟の再現、仏教文物・各種資料の提供なども行われている。その出品物には、8 世紀書写とされるペトロフスキー法華経写本や 1～2 世紀書写のガンダーラ語の法句経の複製などが含まれる。また、敦煌莫高窟の壁画に描かれた飛天の模写絵や、敦煌文書の法華経（複製）をはじめ、経典書写の際に使用された鉄筆や白樺の樹皮の複製品など、展示全体で約 160 点に及ぶ文物が出展されている。また研究所では、同展を解説した『ガイドブック法華経展——平和と共生のメッセージ』を編纂し、日本語、英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）の 4 言語で刊行している。

展示会のコンセプトは“目で見える法華経”であり、日本だけでなく、仏教発祥の地であるインド、ネパールやイスラム文化圏のマレーシア、上座部仏教国のタイなどアジア各地をはじめ、ヨーロッパ、南米で開催。世界 17 カ国・地域で約 90 万人が鑑賞する展示会となっている。これまで、韓国の李壽成元首相、タイのウィーラ・ロートポッチャナラット文化大臣、香港中文大学終身主任教授の饒宗頤博士、翻訳家のバートン・ワトソン氏など各界を代表する来賓も展示会に訪れている。

「法華経の多様な写本を拝見しました。これらは、仏教精神への理解を深め、『法華経』のメッセージを世界に広げていく為のこのうえない資料です」（アルゼンチンサルバドル大学東洋学学院カルロス・マヌエル・ルア院長）、「仏教の普遍的価値を浮き彫りにし、人類の精神的遺産の一部とする歴史的な展示会です」（インド国立公文書館ムシルル・ハサン館長）等の声が寄せられている。

“目で見る法華経”に90万人の鑑賞者

生のメッセージ」展



スペイン・マドリド展（2009年）



シンガポール展（2017年）



神戸展（2012年）



ブラジル・サンパウロ展（2011年）



マレーシア・クアラルンプール展（2014年）



台湾・桃園展（2015年）



タイ展（2017年）

「法華経——平和と共生のメッセージ」展 開催国・地域

1	香港	2006年～2007年、2015年
2	マカオ	2007年
3	インド	2007年、2008年、2009年、2010年
4	スペイン	2009年、2012年
5	ネパール	2010年
6	ブラジル	2010年、2011年
7	スリランカ	2011年、2013年
8	イギリス	2011年
9	日本	2012年、2013年、2014年
10	台湾	2013年、2015年
11	マレーシア	2014年
12	アルゼンチン	2014年
13	韓国	2016年、2018年
14	ペルー	2016年
15	タイ	2017年
16	シンガポール	2017年
17	インドネシア	2019年

インドネシア・デポック



PAMERAN
Sutra Bunga Teratai



PESAN PERDAMAIAN & KERUKUNAN HIDUP
ACARA PEMBUKAAN

「法華経—— 平和と共生のメッセージ」展

世界 17 カ国・地域目となる「法華経——平和と共生のメッセージ」展のインドネシア大学図書館展の開幕式が 9 月 10 日、インドネシアの西ジャワ州デポック市で開催された。

展示品は、インドネシア国立博物館、インドネシア大学図書館の所蔵品を含め、約 110 点が公開された。パネル枚数は 65 枚に及び、展示物には、これまでの展示会と同様の文物とともに、インドネシアでの仏教流伝の歴史を紹介するコーナーを設置。そこでは、インドネシア国立博物館製作によるインドネシアにおける仏教受容の歴史と世界遺産ボドブドゥールの解説パネルの展示を行った。また、同博物館からは、オリジナルの文物 3 点が出品された。

インドネシアは、国民の約 9 割以上がイスラーム教徒であるが、憲法に謳われる「パンチャシラ（建国 5 原則）」によって信教の自由が保障され、イスラーム、カトリック、プロテスタント、ヒンドゥー、仏教、儒教の 6 つが公認宗教となっている。展示会実施にあたっては、こうした国情を主催団体が理解し、これまで以上に法華経の普遍性を伝えることが目指された。

インドネシア大学図書館で開催



開幕式には、主賓としてワヒド元大統領のシンタ・ヌリヤ夫人、インドネシア大学のムハマッド・アニス学長、教育・文化省のスリ・ハルティニ文化総局官房長、青年・スポーツ省大臣代理のジョニー・マルディザル大臣専門職員らが列席。インドネシアの政財界、教育・学術界の代表をはじめ、インドネシア大学の学生、インドネシア創価学会、シンガポール創価学会、マレーシア創価学会のメンバーなど約400人が出席し、来賓の祝辞とテープカットが行われた。翌11日には、シンポジウム「平和と共生のメッセージ——平和のための文化的多様性を理解する」が開催された。これには、インドネシア世界記録博物館創立者のジャヤ・スプラナ氏、インドネシア大学のヌルハディ・マゲットサリ教授、東洋哲学研究所の蔦木栄一委嘱研究員（研究事業部副部長）が登壇し、発表を行った。

展示会は、インドネシア国営放送（TVRI）で特集番組として放映されたほか、メトロ TV、「DAAI TV」、有力紙「コンパス」など、国内のメディアでも取り上げられた。同展は9月24日に閉幕し、期間中、8,700人が鑑賞者に訪れた。



2 会場で 2 万 4000 人が鑑賞

インドネシア 2 会場目となる法華経展は 9 月 29 日、首都ジャカルタのインドネシア創価学会本部で開幕した。同展では、インドネシア大学図書館展での出品数を越える約 140 点が公開された。

開幕式には、宗教省のチャリアディ仏教徒指導総局長とトーフィックジャカルタ首都特別州事務所長、インドネシア仏教連盟のハルタティ・ムルダヤ議長、ジャカルタ首都特別州のスワント仏教徒指導局長をはじめ、政府、仏教団体、教育機関の関係者やインドネシア創価学会のメンバーなど約 200 人が出席。来賓祝辞や、バリ舞踊などの演目、テープカットが行われた。

式典の様や展示内容は、インドネシア国営放送（TVRI）がニュースとして報道した。同展は 10 月 27 日まで開催され、会期中の鑑賞者は 1 万 5,500 人に上った。

インドネシアで行われた法華経展の 2 会場の鑑賞者数は累計 2 万 4,000 人となり、同国内で大きな反響を呼んだ。

鑑賞者の声



●インドネシア第4代ワヒド大統領 シント・ヌリヤ 夫人

この法華経展を見たあと、さらにいろいろな話を伺って、釈尊の誕生から仏教の伝播の歴史を具体的に知ることができました。ガイドの方が丁寧に説明してくださり、大変によく分かりました。彼女も歴史をよく理解し、暗記しているため、ほんの束の間であっても、展示会で伝えたいこと、法華経の教えについて理解することができました。法華経展は平和の達成に貢献できると思います。ましてや現在のインドネシアの状況を見れば、平和について考えることは、とても意義のあることだと思います。法華経展を見ることによって、平和を築くための考えを巡らせることができ、インドネシアがより良くなっていくことを願っています。私は法華経展が、非常に価値がある展示会だと思います。



●インドネシア大学 ムハマッド・ アニス 学長

私は、東洋哲学研究所が企画する法華経展で、共に開幕式を行えたことを感謝申し上げます。そして、約2週間に渡って開催する展示会の主催者になれたことを、学長として心から感謝いたします。私は、学術とは社会福祉に資するものでなければならないと思っております。今回、東洋哲学研究所のおかげでこのような展示を行うことができることをうれしく思います。法華経展は、東洋哲学研究所が20年以上に渡って開催してきた展示会です。私は、この法華経展が、インドネシアの時勢にかなっていると感じます。そして、わが大学にとって、知識をさらに高める機会となるでしょう。



●インドネシア教育・文化省 イスリ・ハルティニ 文化総局官 房長

法華経展は、非常に時にあっており、人道的寛容について紹介するものであります。過去から学び、自分とは何なのかを問うことです。こうした点を考え、文化の多様性を深めていくのが必要なのです。インドネシアとアジアは繋がりを持ち続けていました。文化表現、建築物、そして宗教の面において各地域で交流をしてきたのです。その意味からも、国際的な展示会である法華経展は、大変には素晴らしいのです。全世界に伝播した法華経写本を網羅した展示会ではありますが、法華経は仏教徒のものだけではありません。民族を超えた人類全員の遺産です。文物の展示を鑑賞し、お互いを尊敬し、尊重するという精神遺産として学んでいきたいと思っております。

◆企画・制作：東洋哲学研究所

◆主催：東洋哲学研究所、敦煌研究院、インドネシア創価学会、インドネシア国立博物館、インドネシア教育・文化省、インドネシア青年・スポーツ省、インドネシア宗教省

◆後援：ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、インド文化国際アカデミー、ワヒド財団、インドネシア女性会議、プルノモ・ユスギアントロ・センター、ブタウィ文化協会

◆会場・期間：インドネシア大学図書館（デポック）2019年9月10日～24日

インドネシア創価学会本部（ジャカルタ）2019年9月29日～10月27日

連続公開講演会 統一テーマ 「人類の未来と人権」

2019年はマハトマ・ガンジー生誕150周年であり、東洋哲学研究所創立者である池田大作 SGI 会長が、ノーベル平和賞のアドルフォ・ペレス＝エスキベル博士とともに編んだ対談集『人権の世紀のメッセージ』の発刊から10周年の年である。この佳節を迎え、連続公開講演会では、「人類の未来と人権」を統一テーマに、21世紀の人権の指標を広く示す試みとして、宗教をはじめ各分野の識者を招聘して講演会を実施した。

- ◆講師：佐藤 優（同志社大学客員教授、作家）
- ◆開催日：2019年10月11日
- ◆会場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）
- ◆テーマ：キリスト教における神権と人権



講演では、「現在の世界史の教科書などでは仏教は世界宗教と なっていますが、それは東アジアや東南アジアに限定されている地域宗教に過ぎません。イスラーム、キリスト教は世界に広がっていることを見ると、それに比肩しうるのが、SGI（創価学会インタナショナル）の躍進であります。東の端に生まれた日蓮仏法が、西に還っているのです」と述べた。そして、キリスト教徒が多数を占めるヨーロッパにおいて、神権が人権へと変化していった流れに言及。「創立者である池田 SGI 会長は、人と人にある偏見と誤解の厚い壁を、ただ破壊するだけのような共産主義・革命家的な行動ではなく、その壁の向こう側に仲間を作って平和を築いてくれました。このような行動こそが人間主義であり、創価学会の人権観であると思うのです」と語った。

- ◆講師：桐ヶ谷 章（東洋哲学研究所所長、弁護士）
- ◆開催日：2019年10月31日
- ◆会場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）
- ◆テーマ：生命尊厳の哲学を世界精神へ



講演では、日本国憲法の規定や、第1から第3世代までの自由権・社会権などの人権の系譜を踏まえつつ、人権を基礎づける人類史上の思想に着目。東洋哲学研究所として大乘仏教からのアプローチの重要性について論究し、仏性が自分だけでなく他人にもあることを不軽菩薩の実践などを通して述べた。そして、仏法が説く「十界論」に見られる誰人にも内在する尊極の仏の生命を湧現させゆくことこそが、東洋哲学研究所創立者である池田 SGI 会長が現代で訴える「生命尊厳の哲理」であり、人権観の根幹であることを強調した。さらに、池田会長が提言した第3の「七つの鐘」に触れて、「生命尊厳の哲学を時代精神にし、世界精神へと定着させる」と池田会長によって示された未来構想の実現へ向けて、これからの一人ひとりの行動と対話の歩みがますます重要となっていくことを述べた。

東京と仙台で実施された連続公開講演会「人類の未来と人権」には、累計 1000 人を超える聴講者が訪れた。首都圏・東北だけでなく、北海道から沖縄まで全国各地から来場した参加者からは、識者たちが示した 21 世紀の人権観に対して「講演会を通して、一人ひとりがより幸福な道を歩めるように語り合っていくことの大切さを学ぶことができました」など多くの声が寄せられている。

- ◆講師：池田 弘乃（山形大学准教授）
- ◆開催日：2019 年 11 月 28 日
- ◆会場：TKP ガーデンシティ仙台（宮城・仙台市）
- ◆テーマ：マイノリティと個人の尊厳：LGBT という言葉から考える



講演では、性的なマイノリティである「LGBT」とは何かを問い、考えることの意味について解説を加えていった。そして、「本来、『性』という言葉は、『さが』と読んでいたことから、人間の本性という意味が込められており、現在の使い方とは異なっていました。性的なマイノリティを表す言葉としての『LGBT』が公的な文書で初めて使われたのは、2006 年と言われており、21 世紀に入ってから着目された人権概念です。社会や法律が男女の 2 つの区分を前提に作られている現状では、これまでの人権概念とともに、LGBT をはじめとする新しい人権概念を、どのように知り、理解していくことができるかが、これから生きていくために重要な第一歩であると考えます。性的な事柄やさまざまなマイノリティの存在を一部の人だけでなく、すべての人が自分事としてとらえることが大切なのです」と述べた。

- ◆講師：黒住 真（東京大学名誉教授）
- ◆開催日：2019 年 12 月 13 日
- ◆会場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）
- ◆テーマ：人権の位置と形成—近世・近代の歴史体験から



講演で、黒住氏は、「現代を生きる私たちには、人間の方向性を示す人がいないように思います。だからこそ、東洋哲学研究所創立者である池田 SGI 会長のような大きな世界観を示す方が必要なのです。日本で人権を考えるうえでは、戦争の歴史を見るのが大事です。本当に正しい人権観を持った人は、必ず反戦の行動をし、弾圧をされます。創価学会の牧口常三郎初代会長がまさにそうです。きちんと闘った人だからこそ、権力は牢獄に入れたのです。かつて、仏教やキリスト教は国に認められれば良いという考えを持っていて、世界的な広がりがありませんでした。そのため、仏典や聖書の文献解釈などは発展してきましたが、民衆の生活に入って実際に宗教として役に立ってきたとは言えませんでした。ですから、宗教はテキスト上のことを考えるのではなく、社会のなかに絆を築いていく役割があるのです」と語った。

市民提供講座／研究部員会

東洋哲学研究所では、市民大学の八王子学園都市大学いちよう塾に講座を提供している。
また、研究員・委嘱研究員は、日頃の研究成果を発揮する場として研究部員会と研究部
門・プロジェクトごとの研究会を開催している。

八王子学園都市大学

いちよう塾一般公開講座

4月27日 「経典はこうして誕生した！～仏教入門 ブッダの教えを伝えた弟子達～」

古川洋平（研究員）

5月18日 「豊かに賢く生きるための法律の知恵～憲法、基本的人権そして身近な法律問題を考える～」

桐ヶ谷章（所長）

6月 1日 「きちんと知ろう、中東イスラームの歴史と現在～イスラームは戦争と暴力の宗教なのか～」

岩木秀樹（委嘱研究員）

研究部員会

1月22日

I 「東日本大震災の仮設住宅における被災者の暮らしー岩手県陸前高田市における8年の継続調査を通してー」

II 「複合的な生活課題に対応する地方自治体における包括的相談・支援体制ー全国自治体の実態と意向調査を通してー」 宮城孝（委嘱研究員）

4月23日

「『管子』の経済思想ー倉廩実ちて礼節を知るについてー」 若江賢三（委嘱研究員）

5月28日

「宗教学の公共性ー『公共宗教学』は可能かー」 平良直（研究員）

6月18日

「牧口『価値論』とリップスと阿部次郎」 前川健一（研究員）

7月16日

「中世寺院・寺領における神仏世界ー東寺文書の神文分析を中心にー」 田村正孝（委嘱研究員）

9月17日

「最近の湾岸情勢と日本」 浅子清（客員研究員）

10月15日

「文部省官僚・牧口常三郎の苦闘」 上藤和之（委嘱研究員）

11月19日

「承久の乱と有力得宗被官家の成立」 梶川貴子（委嘱研究員）

12月17日

「現代社会における文化資本をめぐる民衆運動の可能性」 井上大介（委嘱研究員）

研究部門活動

部門・プロジェクト研究会

■第1部門「仏教学」

部門研究会

- 8月31日「saddhādhimuttaについて—ヴァツカリ伝承に見る信の側面—」古川洋平（研究員）
「『法華伝記』の成立年代と「釈志遠伝」の位置づけについて」松森秀幸（研究員）
「日蓮の真筆文字研究」小林正博（主任研究員）

■第2部門「人類的課題と宗教」

第5プロジェクト 文明論

- 1月29日「A. トインビーの宗教観 —B. ウィルソン対談との比較—」大西克明（研究員）
7月23日「中国におけるトインビー研究の現状—文明史観・中国史観を中心に」満田剛（委嘱研究員）
10月29日「トインビーにおける共産主義観」平良直（研究員）
11月26日「2000年以降の英語圏におけるトインビー研究の動向」春日潤一（委嘱研究員）

第6プロジェクト 仏教と社会（女性・平和・人権）

- 1月29日「『平和提言』にみる核軍縮・核兵器廃絶への提案Ⅱ—時代的状况を視野に入れ
1991～2008年の考察」大島京子（研究員）

新・第6プロジェクト ジェンダー

- 7月9日「ジェンダー・スタディーズの成立と課題」栗原淑江（主任研究員）
12月10日「『ジェンダーで学ぶ社会学』を読む」長尾名穂子（委嘱研究員）

第7プロジェクト 生命倫理

- 10月19日「認知症研究の現状と展望」道川誠（委嘱研究員）
11月30日「脳死判定と臓器移植の現状と展望」小野稔（委嘱研究員）

第8プロジェクト 科学技術・環境問題

- 11月16日「人工知能研究および情報技術の発展と社会および人間観への影響—今起きている
こととこれから起きそうなこと」畝見達夫（委嘱研究員）

■第3部門「仏教の現代的展開」

部門研究会

- 2月9日「V. ナボコフの作品における輪廻転生（メテムサイコス）の主題について」寒河江光徳（委嘱研究員）
「アメリカ憲法学における尊厳概念の具体的適用性」上田宏和（委嘱研究員）
「大規模民間企業における経営管理と心根（こころね）の事例研究—猜疑・不満・不信を乗り越えて—」光國光七郎（委嘱研究員）

「法華經写本シリーズ」



東洋哲学研究所と創価学会は、法華經写本を所蔵する世界の研究機関および研究者の協力を得て、「法華經写本シリーズ」の刊行を推進してきた。これは、各国に保存されてきた貴重な法華經写本を鮮明なカラー写真で撮影した「写真版」と、写本の「読み」をローマ字化した「ローマ字版」を公刊し、世界の研究者に広く提供して『法華經』を中心とした初期大乘仏教の研究に貢献するためのものである。

1994 年に出版委員会を発足させ、1997 年から 2019 年にかけて全 17 タイトル 19 点を発刊。また、当シリーズ発刊の契機の一つとして、

東洋哲学研究所創業者・池田 SGI 大作会長に対して、世界の研究機関等から貴重な「法華經写本」の複製やマイクロフィルム等が寄せられてきたことがあげられる。

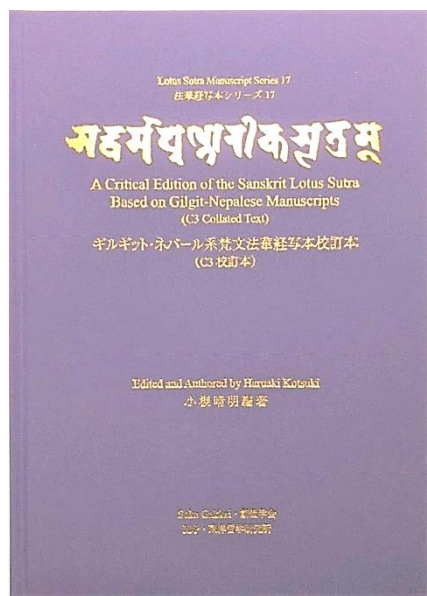
梵文法華經の校訂本としては「ケルン・南條本」（1908～1912 年）、「荻原・土田本」（1934～1935 年）、「ダット本」（1953 年）等の先駆的業績があったが今日の学問的水準から見ると、より正確で信頼に足る校訂本が望まれている。当シリーズは、そのための基礎資料を提供するものである。

「法華經写本シリーズ」一覧

- 1 旅順博物館所蔵 梵文法華經断簡 — 写真版及びローマ字版
- 2-1 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 4-21) — 写真版
- 2-2 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 4-21) — ローマ字版 1
- 2-3 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 4-21) — ローマ字版 2
- 3 カーダリク出土 梵文法華經写本断簡
- 4 ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本 (Add. 1682 および 1683) — 写真版
- 5 東京大学総合図書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 414) — ローマ字版
- 6 ロシア科学アカデミー・東洋学研究所サントペテルブルク支部所蔵 西夏文「妙法蓮華經」— 写真版 (鳩摩羅什訳対照)
- 7 英国・アイルランド王立アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 6) — ローマ字版
- 8 パリ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 2) — ローマ字版
- 9 大英図書館所蔵 梵文法華經写本 (Or. 2204) — 写真版
- 10 ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本 (Add. 1684) — ローマ字版
- 11 大英図書館所蔵 梵文法華經写本 (Or. 2204) — ローマ字版
- 12 インド国立公文書館所蔵 ギルギット法華經写本 — 写真版
- 13 ロシア科学アカデミー・東洋古文書研究所所蔵 梵文法華經写本 (SI P/5 他) — 写真版
- 14 コルカタ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 4079) — ローマ字版
- 15 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 5-144) — ローマ字版
- 16 プリンストン大学図書館所蔵 西夏文妙法蓮華經 — 写真版及びテキストの研究
- 17 ギルギット・ネパール系梵文法華經写本校訂本 (C3 校訂本)

出版物

『ギルギット・ネパール系梵文法華經写本校訂本(C3校訂本)』(非売品)



「法華經写本シリーズ」出版委員会が発足した1994年から25周年の佳節に当たる2019年に完成した本書は、ケンブリッジ大学所蔵の写本(C3 = Add. 1682)を底本にして、梵文法華經写本ギルギット系とネパール系の異読等を注記した校訂本として刊行したものである。C3写本は、ネパール系貝葉写本で最古のもので、9世紀中頃に書写されたと推定される。法華經の序品第1から見宝塔品第11の前半部分までが残存しておりその後半部分は未発見ではあるが、ギルギット系写本群とネパール系貝葉写本群の中間に位置する貴重な資料として位置づけられるものである。

本書は、編著者である東洋哲学研究所の小槻清明委嘱研究員による研究成果であり、該当箇所に関する法華經校訂本として、十分に世に問う価値を有するものと考えます。

東哲叢書『現代語訳 法華玄義(下)』 定価: 6,500円+税



東洋哲学研究所の叢書<東哲叢書>の仏典現代語訳シリーズIとして刊行している『現代語訳 法華玄義』の(下)が完成した。

これは、2018年11月刊行の(上)に続くもので、菅野博史副所長が訳注を担当した。

『妙法蓮華經』の意味とは何か、『法華經』の諸法実相とは何か、教主釈尊の修行の因と仏としての果とは何か、衆生を救済する断疑生信の力用とは何か、釈尊一代の説法教化とは何かなど、『妙法蓮華經』の名・体・宗・用・教の五重玄義を明らかにした『法華玄義』の完訳で、解説と索引を付している。



東洋学術研究 第58巻 第1号(通巻182号)

定価：1,238円+税

■本号では、2018年9月5日に中国・敦煌研究院と共同開催したシンポジウム「敦煌と法華経」から、東洋哲学研究所創立者・池田大作 SGI 会長のメッセージと発表者の論考を収録。「法華経——平和と共生のメッセージ」展を共催する同研究院との法華経をめぐる研究推進の機会となったシンポジウムを紹介する。

■2018年10月から12月に実施した連続公開講演会「経済倫理と宗教」から、仏教、キリスト教、イスラーム、儒教の各宗教から迫った経済的諸問題解決への視座を論じた発表を掲載。1994年の出版委員会発足から25周年を迎えた「法華経写本シリーズ」への特別寄稿も収録する。

主な内容

- 特集「敦煌と法華経」(敦煌研究院との共同シンポジウムより)
 - メッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・池田大作(東洋哲学研究所創立者、創価学会インタナショナル会長)
 - 莫高窟第二八五窟を『法華経』の角度から解読する
・・・・・・・・・・・・・・・・張元林(敦煌研究院シルクロードと敦煌研究センター長・研究員)
 - 中国天台における『観音経』(『法華経』観世音菩薩普門品)の注釈について
・・・・・・・・・・・・・・・・菅野博史(東洋哲学研究所副所長、主任研究員)
 - 敦煌に居留した于闐(ホータン)人の法華信仰・・・・・・・・張小剛(敦煌研究院研究員、考古研究所所長)
 - 敦煌の二仏並坐の淵源について——失われた街を訪ねて——・・・・・・・・山田勝久(東洋哲学研究所委嘱研究員)
 - 吐蕃統治期の敦煌における法華信仰・・・・・・・・趙曉星(敦煌研究院研究員)
 - 敦煌写本『法花行儀』と唐代法華思想・・・・・・・・松森秀幸(東洋哲学研究所研究員)
- 「経済倫理と宗教」(連続公開講演会より)
 - スチュワードシップの神学——創り主に託された経済のあり方——・・・・・・・・東方敬信(青山学院大学名誉教授)
 - イスラームにおける経済倫理・・・・・・・・小田淑子(宗教倫理学会元会長、関西大学元教授)
 - 中国における儒教思想の経済倫理・・・・・・・・金山権(桜美林大学大学院教授)
 - 経済倫理と仏教：グローバル経済の変革における「菩薩」という人間像の意義・・・・・・・・高木功(創価大学教授)
- 寄稿
 - 初期仏教の教義学に関する問題に対して
・・・・・・・・マルガリータ・I・ヴォロビョヴァ＝デシャトフスカヤ(ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所顧問)
 - 仏教の伝統と論書におけるヴァスバンドウの人物像
・・・・・・・・エレナ・P・オストロフスカヤ(ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所南アジア部長)
- 書評
 - 山脇直司編『教養教育と統合知』(東京大学出版会、2018年)・・・・・・・・松岡幹夫(東洋哲学研究所研究員)
- 〈研究覚え書き〉
 - 「四権分立構想」と教育権の独立・・・・・・・・島田健太郎(東洋哲学研究所委嘱研究員)
 - ゲーテの輪廻観・・・・・・・・ツグラッゲン・エヴェリン(東洋哲学研究所委嘱研究員)
- 「法華経写本シリーズ」出版委員会発足25周年記念特別寄稿
 - 西夏文法華経と西夏語の研究——ロシア・米国所蔵資料にもとづいて——
・・・・・・・・荒川慎太郎(東京外国大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授)



東洋学術研究 第58巻 第2号(通巻183号)

定価：1,238円+税

■本号では、特集「シルクロード——仏教東漸の道（1）」をテーマに、5人の研究者による論稿を掲載している。このなかでは、国内外の研究会による最新の研究から、東洋の精神遺産である仏教が古の人々によっていかに伝承・受容されてきたのかが考察されている。今後、仏教文化の伝播の様相を再考する内容として、次号以降も特集を組んでいく予定である。

■2019年3月16日に創価大学で開催した同志社大学良心学研究センターとの共同シンポジウム「地球文明と宗教の役割——平和と幸福観をめぐって」の発表内容を収録している。その他、ガンジー生誕150周年を記念した寄稿論文や書評等も紹介する。

主な内容

■特集 「シルクロード——仏教東漸の道」(1)

- 特集にあたって……………川崎建三（東洋哲学研究所委嘱研究員）
- 嘘をついたらなぜ閻魔様に舌を抜かれるのか？——シルクロードと閻魔大王の東漸——田辺勝美（元中央大学教授）
- 西域の仏教伝播における紙の貢献……………榮新江（北京大学教授）
- 『カルパージャ・スートラ』と仏塔信仰……………段晴（北京大学外国語学院教授）
- 『三國志』撰述における西方非漢族関係の記載に関する一考察……………満田剛（東洋哲学研究所委嘱研究員）

■地球文明と宗教の役割——平和と幸福観をめぐって

（第34回学術大会／同志社大学良心学研究センターとの共同シンポジウムより）

- 宗教が平和に貢献するための課題——良心学と統合的平和の視点から……………小原克博（同志社大学良心学研究センター・センター長）
- 仏教者の戦時対応に対する解釈の可能性——創価教育学会の事例に即して……松岡幹夫（東洋哲学研究所研究員）
- キリスト教における幸福観と超越的思考——教育的営為のなかで——……………中村信博（同志社大学良心学研究センター研究員）
- 幸福論の復権と創価思想……………石神豊（東洋哲学研究所主任研究員）

■ガンジー生誕150周年記念特別寄稿

- ガンジーの教訓——非暴力主義の選択と持続可能な平和……………N・ラダクリシュナン（インド・ガンジー研究評議会議長）
- トルストイとガンジー……………A・A・グセイノフ（ロシア科学アカデミー正会員）

■寄稿

- 歴史におけるパリ語……………R・ゴンブリッチ（オックスフォード仏教学研究創設者）

■書評

- 大沼保昭著『国際法』（筑摩書房、2018年刊）……………蔦木文湖（東洋哲学研究所委嘱研究員）

■〈研究覚え書き〉

- 牧口常三郎の善悪観のついての一考察……………岩木勇作（東洋哲学研究所委嘱研究員）
- 歴史の継承とアーカイブズ……………坂口貴弘（東洋哲学研究所委嘱研究員）

出版物

The Journal of Oriental Studies vol. 29 定価：2,000円+税



Main Articles

Feature: Dunhuang and the Lotus Sutra

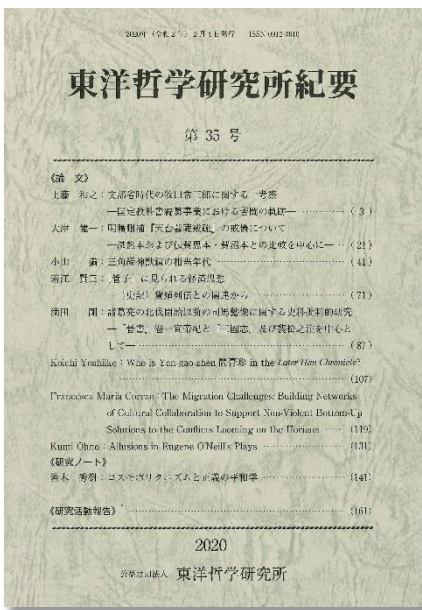
From the Collaborative Symposium with the Dunhuang Academy

- Message..... *Daisaku Ikeda*
- Interpretation of Mogao Cave 285 from the Perspective of the Lotus Sutra..... *Zhang Yuanlin*
- The Chinese Tiantai Commentaries on the *Avalokiteśvara Sūtra*..... *Hiroshi kanno*
- Belief in the Lotus Sutra among the Khotanese Residents of Dunhuang..... *Zhang Xiaogang*
- Visiting the Lost City States: Origin of the Two Buddhas Seated Side by Side in Dunhuang
..... *Katsuhisa Yamada*
- Belief in the Lotus Sutra during the Tibetan Period..... *Zhao Xiaoxing*
- The Dunhuang Manuscript *Fahua Xingyi* and Lotus Sutra Thought during the Tang Period
..... *Hideyuki Matsumori*

Special Contributions to the 25th Anniversary of the Lotus Sutra Manuscript Series Project
The Importance of the Study of the *Saddharmapuṇḍarīka* Manuscripts World

- *Seishi Karashima*
- The Path Towards A Critical Edition of the Sanskrit Lotus Sutra Based on Gilgit-Nepalese Manuscripts (C3 Collated Text)..... *Haruaki Kotsuki*
- The Tangut Version of the Lotus Sutra and the Study of the Tangut Language
..... *Shintaro Arakawa*
- On and around the Gilgit Manuscripts in the National Archives of India..... *Noriyuki Kudo*

東洋哲学研究所紀要 第35号 (非売品)



《論文》

- 文部省時代の牧口常三郎に関する一考察—国定教科書編纂事業における苦闘の軌跡
..... 上藤和之 (委嘱研究員)
- 明曠刪補『天台菩薩戒疏』の戒儀について—湛然本および伝慧思本・慧沼本との比較
を中心として—..... 大津健一 (委嘱研究員)
- 三角縁神獸鏡の相当年代..... 小山満 (委嘱研究員)
- 『管子』に見られる経済思想—『史記』貨殖列伝との関連から—
..... 若江賢三 (委嘱研究員)
- 諸葛亮の北伐開始以前の司馬懿像に関する史料批判的研究—『晉書』卷一宣帝紀
と『三國志』及び裴松之注を中心として—..... 満田剛 (委嘱研究員)
- Who is Yan-gao-zhen 閻膏珍 in the *Later Han Chronicle*?
..... 吉池孝一 (委嘱研究員)
- The Migration Challenges: Building Networks of Cultural Collaboration to
Support Non-Violent Bottom-Up Solutions to the Conflicts Looming on the
Horizon..... Francesca Maria Corrao (海外研究員)
- Allusions in Eugene O'Neill's Plays..... 大野久美 (委嘱研究員)
- 《研究ノート》
- コスモポリタニズムと正義の平和学..... 岩木秀樹 (委嘱研究員)
- 《研究活動報告》



公益財団法人東洋哲学研究所

〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

Tel: 042 (691) 6591 Fax: 042 (691) 6588

メールアドレス: iop_info@iop.or.jp

日本語サイト: <http://www.totetu.org/>

英語サイト: <http://www.iop.or.jp/>



公益財団法人東洋哲学研究所

THE INSTITUTE OF ORIENTAL PHILOSOPHY